

富士神秘の森の散策と天子山塊の山旅
青木ヶ原樹海・長者ヶ岳～天子岳

実施日 2015年10月24日(土)～25(日)

天候 晴れ

リーダー 渋谷京子 SL 涌井良明

参加者 涌井良明、山崎富美恵、白石恵美子、石附智江、渋谷賢寿、渋谷京子、伊藤久雄、天野拓朗、石附恵理子 計9名

費用 交通費@3,000円

宿泊費13,790円 合計16,790円

タイム 10/24 野鳥の森公園(9:30)風穴分岐(10:16~20)分岐(10:40)富岳風穴(見学11:25~40)鳴沢氷穴(見学12:12~30)昼食(12:30~13:05)竜宮洞穴(13:55~14:02)コウモリ穴(見学14:25~55)野鳥の森公園(15:33)～休暇村富士 泊

10/25 休暇村富士(8:35)休(9:00~05)分岐(9:35~45)休(10:22~25)長者ヶ岳(10:52~11:12)天子ヶ岳(11:57~12:40)昼食(13:25~30)林道(13:57)休(14:35~40)休暇村富士(15:02)

木枯らし一号が東京地方を吹き荒れる中(夜?)一行9名は3台に分乗して中央道を一路、西湖に向けて出発した。

曇りがちの空も談合坂辺りから青空が覗き、はや心が踊る。白い衣を纏った富士がぐんぐん近付いてくる。やがて本日スタートの西湖野鳥の森公園に到着。青空にド



ウダンツツジの深紅のグラデーションが見事だ。

青木ヶ原樹海・鬱蒼としてい



て一度迷い込んだら出られない危険な森



と云うイメージだが、標識に従い遊歩道を歩けば迷う事もない。森は巨木の

根が露出し苔むした溶岩がゴロゴロ転がっている。木漏れ日に陰影をつけた森は想いの外明るい。国道を渡り富岳風穴へ、全長201mの横穴式洞窟、平均気温3度、昭和初期まで蚕の卵の貯蔵や種子の保存に使われていたそう。そして30分ほ

どで鳴沢氷穴へ、真夏でも溶けない氷柱はまさに自然の芸術である。こちらで昼食タイム、落ち



葉の絨毯に腰かけ秋の陽射しをいっぱい浴びる。フルーツ、お菓子のデザートをご馳走になって後半スタート。遊歩道を北上し国道のトンネルを抜け暫く進むと竜宮洞穴へ到着。溶岩台地に大きな穴がぽっか



り開いていて吸い込まれそう。

そして最後はコウモリ穴、入りたい組のみ入場、待ち

組はおやつタイム、合流後樹海に戻り陽が傾きかけた頃、公園にゴールした。

今宵の宿「休暇村富士」は半年前から予約の人気宿で超満員状態。田貫湖の上に大きな富士が裾野を広げている。

翌朝、山の端から朝日が少しずつ顔を出し周囲をオレンジ色に染めていく。冷んやりとした空気の中am8:35長者



ヶ岳～天子ヶ岳の縦走に出発。

休暇村の建物を背に右手上方の林道の終点が登山口、樹林帯のジグザグ道で高度を上げる。田貫湖からの道が合流しテーブル、ベンチの展望の良いポイントに出る。左へ緩やかな東海自然歩道を辿り、木段を過ぎると間もなく長者ヶ岳の山頂だ。

東側は田貫湖、富士のビューポイント、北西側は北岳、間ノ岳、塩見、聖の南アルプスがくっきりと望める。

集合写真に納まり、天子ヶ岳へなだらかな道を下る。



ブナ、オオカメノキ、カエデ、モミジ等、赤、オレンジ、黄色に染まり青空と

緑の樹木のコントラストが実に美しい。上佐野への分岐を過ぎ暫く進むと天子ヶ岳の頂上の筈だが標識は一段下がった場所でありピンとこない。

写真を撮り広場で昼食とした。左に富士見台の展望台がある。食後ポカポカ陽気に誘われて、暫しうたた寝タイム、至福の時を過ごす。



さてここから樹林帯の急坂が始まる。

靴紐を締め直し下りに取り掛かる。



木の根、石混じりの坂をぐんぐん下り桜並木を通過し更に下ると林道に飛び出す。

左の田貫湖方面へ向かう。

この林道が結構アップダウンが有り乳酸の溜まること、溜まること。天子の森キャンプ場を過ぎ漸く休暇村富士に辿り着いた。

帰りは鳴沢村の「ゆらり」で汗を流し、帰路についた。



今回の山行は富士山をほぼ半周、雪が有ったり無かったり様々な表情に触れる事が出来て、富士三味のこころに残る山旅になった。紅葉もそこそこ、秋山を楽しんで戴けたでしょうか。

車を提供して戴いたwさん、Iさん、参加された皆様、サポート、ご協力どうも有難うございました。

(記・渋谷 京子)

(写真提供・涌井 良明/伊藤 久雄)

